

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071100640		
法人名	有限会社 同朋		
事業所名	グループホーム同朋		
所在地	福岡県福岡市南区横手3丁目37-24 (電話) 092-502-5601		
自己評価作成日	平成 27 年 2 月 10 日	評価結果確定日	平成 27 年 3 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者の皆さんと職員が、家族のように温かい雰囲気のホームです。バランスのとれた食事作りを入居者様に手伝っていただき、楽しく食卓を囲んでいます。また、3階の多目的室においてボランティアの方や学童の方とのふれあいなど、地域の方々と共に過ごせる機会を多くしています。また、終末期を迎えられた時も、老健や特養に移って頂くことができます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 27 年 2 月 24 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は都心部に近く利便性が良い地域にあり、昔ながらの商店や住宅も建ち並ぶ場所に位置している。事業所はビルの1・2階にあり、3階には地域住民との交流を目的とした多目的室がある。玄関先や居室、多目的室にはいたるところに鉢植えが飾られていたり花が活けてあり、利用者が季節を楽しめる工夫と共に訪問者への配慮も伺える。また、事業所は職員同士仲が良く、それぞれの力が発揮できるよう、日ごろから積極的に意見交換をしている。食事作りにおいては、美味しく見栄え良い盛りつけや栄養価に優れた食事のメニュー開発に力を入れている。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場の目につく所に表記している。 朝礼時に理念を声に出して共有している。	職員は事業所の理念を毎朝唱和し、法人の全体会、フロア会議でも理念の共有に努めている。また、理念は各ユニット・多目的室に、誰からもわかりやすいように掲示されている。家庭的な雰囲気大切に、地域の生活者として外出の支援をおこなうなど、日常的に理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館の文化祭や夏祭りに参加している。また、近所の八百屋さん利用者と共に買い物に行き、顔見知りになっている。同朋だよりを、毎月店舗に掲示して頂いている。	事業所は自治会に加入しており、町内清掃活動や地域の防災訓練にも参加し、音楽祭や夏祭りなどにも利用者と一緒に出かけている。また、事業所主催の行事には準備からボランティアの協力があり、地域住民の参加もあって、事業所は地域住民との交流を積極的に行っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の婦人会、民生委員、町内会長、公民館長の方々に出席頂き、地域の情報を頂くなどしてサービスの向上を図っている。また、地域の防災訓練にも参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員が運営推進会議の議題を話し合っている。運営推進会議では、現状報告と共に頂いた意見を活用出来る様、努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、家族・地域包括支援センター・公民館長・町内会長・民生委員などの参加がある。会議では利用者の状況や事業所の活動内容の報告などがある。参加者からバスハイク先の提案をしてもらうなど、意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	南第4地域包括支援センターの参加を頂いている。また、入居に際しての協力も頂いている。同朋だよりは、毎月届けている。	職員は毎月、市や地域包括支援センターに事業所便りを持参し、日ごろから顔が見える協力関係作りを心がけている。在宅の困難事例の相談を受けることもあり、行政とは連携に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自主勉強会等で、身体拘束について議題にあげ、話し合いを行なっている。	玄関の鍵はカードキーで管理されている。しかし利用者の外出傾向には気を配り、職員と一緒に出かけるようにしている。身体拘束に関する外部研修に一部職員が参加して内部研修において報告し、またそれぞれの職員が自己学習した資料などを持ち寄り研修を行っている。	玄関の鍵を終日閉めてしまうことを常態化させずに、利用者の外出傾向の更なる把握に努め、利用者の自由な暮らしの提供と安全を確保できるよう、今後の事業所の工夫に期待します。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や自主勉強会に参加し、常に虐待に対する話し合いをもっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についての研修会に参加している。また、全体会議にて研修内容を報告している。	権利擁護に関する制度について、事業所は契約時に家族に対して説明を行っている。パンフレットも玄関に準備しており、家族の要望に応じて、いつでも職員が説明できるようにしている。一部の職員は権利擁護や成年後見制度の外部研修を受講しており、他職員への内部伝達研修をしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書に基づき、十分理解して頂ける様、対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動や表情等の観察を行ない、不満解消に努めている。家族に対しては、苦情意見箱を設置している。	事業所は利用者へのアンケートを行い、利用者からの「もっと出かけたがたい」という意見を受けて、遠方への外出を企画をするなど、意見を運営に反映させている。また、家族からも家族会時や訪問時に要望や意見を聞くように努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議や、フロア会議を行なって、意見や希望を聞いている。	管理者は職員の意見やアイデアをフロア会議やカンファレンス時に聞いている。また、日常的に個別に仕事上の悩みや相談も聞きいれるようにしている。勤務シフトや休日の希望もできる限り取り入れるなど、職員意見の反映に努めている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各個人と面談を行ない、コミュニケーションを図っている。職員の特技を生かした役割を持たせ個別ケアや環境整備等に生かしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては性別、年齢に関係なく行なっている。	採用選考は性別、年齢等を理由として対象者から排除していない。入職後もそれぞれの職員の能力が発揮できるよう役割を分担したり、研修を行うなどして、職員間で能力を高め合っている。また資格手当もあり、職員が自己実現できるような配慮も伺える。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝のミーティング等で常に人権を配慮した介護を行なう様、指導されている。	人権について、一部職員が外部研修を受講しており、パンフレットや資料、記録をもとに毎年1度、全職員を対象に内部研修を行っている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修や実務研修に参加できている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	少しずつだが、地域の同業者との交流を始めている。法人内のグループホームとの交流はある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者と職員で、今住んでおられる所に出向き、面談を行なっている。顔を覚えて頂くと同時に、心配な事がないか、お話しを伺っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたって面談等を行ない、よくお話しし、私どもの協力が届くように対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談により、詳しくお話しを伺っている。病院受診などは、具体的にお話している。その方にあったサービスの利用、気づきを心がけている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴を尊重し、グループホームでも役割をもって、共感共生に基づき、生活して頂いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に日常の細かいところも密に現状報告、共有し、本人の支援にあたっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の要望があれば、いつでも対応できる体制ができています。	入居前に管理者・職員は、家族やケアマネジャー、ソーシャルワーカーなどから利用者の馴染みの人や場所を聞き取り、把握している。入居後も、知人の訪問や遠方家族への電話、公民館の利用、利用者の自宅周辺への散歩で、馴染みの人や場の関係が継続できるよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	観察を行ない、利用者同士の関係を大切にしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去となられた方や他施設に移られた方など、落ち着いた頃に電話にてその後の状況等をお聞きし、気づいたとなどをお話している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの利用者に合わせて介護に取り組んでいる。	職員は、利用者との日々の関わりや表情から思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者については、家族から趣味や生活歴を聴取り、情報を得て利用者の思いや希望を推量り支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供を頂き、連携を行なっている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれ、その方にあった生活が送れるように、見守りや介護に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の居心地の良い環境をめざし、カンファレンスを重ね、介護計画を作成している。	ユニットごとに月1回カンファレンスを開催し、職員全員から意見を聞いて介護計画に反映させている。カンファレンスには、可能な限り家族の参加を依頼し、希望を確認している。3ヶ月に1回見直しを行い、利用者の状態変時及び月1回のモニタリングで意見が出れば、計画の見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアの記録は、行なえている。気づきがあれば、連絡ノートやカンファレンス等で情報の共有と介護計画の見直しを行なっている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば、柔軟に対応できる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、婦人会、消防、ボランティアと連携できている。横手公民館活動の中で、小学生の皆様との交流を図り、支援を心がけている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの病院を希望される方は、そのまま継続されている。家族が同行できない場合は、職員が受診の支援を行ない、報告している。	入所前のかかりつけ医を基本としている。家族から希望があれば、往診医を紹介している。受診は基本的に家族の付添いだが、緊急時は職員が付添い、結果を家族に報告している。半年に1回、歯科検診を支援し、職員が送迎・受診の付添いを行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の訪問診療や、何かあった時等、すぐに連絡がとれるよう、体制ができている。 月2回の心療内科の往診を頂いている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	お互いに介護引き継ぎ書や、医療提供書などの交換を行なっている。入退院時は、職員が病院に同行している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の承諾書とは別に、重度化や終末期のあり方についての事業所の対応方針を明文化して、利用者や家族へ説明し、方針を共有して頂いている。また、その様な状況になりそうな場合は、早めに連絡し、今後のことなどの相談を行なっている。施設、入院等の連携を図っている。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針があり、明文化されている。利用者の状態変化に応じて、家族や主治医と話し合いを行い、家族・本人の希望に沿って支援している。カンファレンスで利用者の状況や今後の方向性を確認し、情報共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルをつくり、全職員が共有している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署からの防災訓練を、年1回行なっている。年間の防災訓練計画を立て、実践している。緊急連絡網に地域の方の掲載の了解を得ている。災害時に備えて、食料や飲料水の確保をしている。	年2回の消防訓練を行い、うち1回は消防署の協力を得て開催している。地域で開催される避難訓練には職員が参加したり、災害時の緊急連絡網に町内会長が登録されるなど、地域との協力体制が築けている。その他に月1回風水害を想定した避難訓練を行い、不測の事態に備えている。非常用備品は2日分程度を事業所内に備蓄している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の日常会話での言葉使いは、管理者より常に指導を受けているが、職員間でも注意し合っている。自主勉強会にて、接遇研修等行なっている。	職員は利用者の耳元で話しかける等、プライバシーに配慮している。個人情報保護法について内部研修を開催し、職員の意識向上に努めている。管理者は職員の日々の言葉使いや対応について点検し、プライバシーを損ねない対応に取り組んでいる。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様に決定して頂けるような、言葉かけを多くしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様全員で協力して頂く事と、個人で楽しんで頂く事など、一日のスケジュールにメリハリをつけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一度、理美容の方に来て頂き、ヘアカットや、顔そりをして頂いている。また、お正月や忘年会など、お化粧品やマニキュアなどして、おしゃれを楽しんで頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、食事の準備、かたづけ、食器拭きなどを、職員と一緒にしている。	食材の買い物から利用者と一緒にいき、毎食を事業所で手作りしている。数ヶ月に渡り食事の写真を撮り、彩や盛り付けについて職員で協議するなど、食事が楽しみなものになるよう事業所で取り組んでいる。キザミやミキサーの食形態にも対応している。職員は利用者と一緒に食事を摂っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な血液検査結果などを参考に、食事量や水分量を考えて実施している。また、入居前から朝食時間が遅かった方は、そのまま継続し、少し遅めの朝食を摂られている。いつでも利用者さまが飲食できるように準備している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアができない方には、声掛け介助している。また、出来る方も、声掛け見守りを行っている。年2回歯科検診のため歯科医院にお連れしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表により、個人の排泄状況を把握し、対応している。	排泄チェック表を確認し、定期的にトイレ誘導を行っている。失敗があれば、本人と周囲に配慮した声かけ・誘導を行い、羞恥心や不安を軽減するよう支援している。職員同士での会話でも隠語を使用し、周囲への配慮も徹底している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食生活を送って頂き、午前、午後に軽い運動をして頂いている。また、排泄管理表により、排便の確認を行なっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴剤を使ったり、季節の行事に添った入浴により、気分を変えて楽しんで頂いている。	入浴の準備を毎日しており、2日に1回入浴の声かけを行っているが、利用者から希望があれば、希望に応じて入浴できるよう支援している。入浴拒否がある利用者については、声かけする職員や時間帯を変えたり、音楽を流すなど工夫しながら入浴の支援をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない様に注意しながら、その方のペースに合わせて、臥床時間を考慮しながら、夜間の良眠に繋げている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れが無いように、職員が服薬管理を行ない、症状に変化があれば医師に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の手伝い、皮むきや根とり、食器拭き、洗濯物たのみ等のお手伝いが、張り合いになっておられる利用者様もおられる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添う事は、難しいが、前もって計画をたて、家族に協力を得て外出することが出来る。近くの散歩程度であれば、本人の体調と天気を見ながら、実施できている。	天気の良い日は近所での散歩を行い、地域住民と挨拶を交わして、顔なじみの関係を築いている。地域の夏祭りへは、家族の協力を得て利用者の参加を支援している。また、季節ごとのドライブを取入れるなどの外出支援も行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族の希望に応じて、トラブルが起きないように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などは、希望されれば直ぐに対応している。また、お正月やお盆などは、ご本人様よりご家族に電話でお話し頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が季節の草花を庭にて摘まれ、玄関やトイレ、居室に飾られている。	家庭的な雰囲気のリビングに利用者が集まり、職員や利用者同士で会話を楽しみ、ゆったりと過ごしている。壁には季節の飾りつけや利用者による書道等の作品が飾られ、居心地良く過ごせるよう工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話が出来る様に、気が合う人と近くにいることが出来るようにしている。また、行き違いや勘違いがある時も、理解者が近くにいる様にしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、馴染みの物を持ち込んで頂ける様に、家族と相談している。	利用者の使い慣れたテレビやラジオ、布団、ぬいぐるみ等が持ち込まれ、安心して過ごせるよう配置されている。家族の写真や事業所で開催された誕生会の写真が飾られるなど、一人ひとりの個性あふれる居室となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりに心がけ、一人ひとりの行動や言動に見守りと注意を払っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場の目につく所に表記している。 朝礼時に理念を声に出して共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館の文化祭や夏祭りに参加している。また、近所の八百屋さん利用者と共に買い物に行き、顔見知りになっている。同朋だよりを、毎月店舗に掲示して頂いている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の婦人会、民生委員、町内会長、公民館長の方々に出席頂き情報を頂き向上を図っている。また、地域の防災訓練にも参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員が運営推進会議の議題を話し合っている。運営推進会議では、現状報告と共に頂いた意見を活用出来る様、努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	南第4地域包括支援センターの参加を頂いている。また、入居に際しての協力も頂いている。同朋だよりは、毎月届けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自主勉強会等で、身体拘束について議題にあげ、話し合いを行なっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修や自主勉強会に参加し、常に虐待に対する話し合いをもっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についての研修会に参加している。また、全体会議にて研修内容を報告している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書に基づき、十分理解して頂ける様、対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動や表情等の観察を行ない、不満解消に努めている。 家族に対しては、苦情意見箱を、設置している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議や、フロアー会議を行なって、意見や希望を聞いている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各個人に面談を行ない、コミュニケーションを図っている。職員の特技を生かして、役割を持って個別ケアや環境整備等に生かしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては性別、年齢に関係なく行なっている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝のミーティング等で常に人権を配慮した介護を行なう様、指導されている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修や実務研修に参加できている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	少しずつだが、地域の同業者との交流を始めている。法人内のグループホームとの交流は、ある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者と職員で、今住んでおられる所に出向き、面談を行なっている。顔を覚えて頂くと同時に、心配な事がないか、お話を伺っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたって面談等を行ない、よくお話しし、私どもの協力が届くように、対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談により、詳しくお話しを伺っている。病院受診などは、具体的にお話している。その方にあったサービスの利用、きずきを心がけている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴を尊重し、グループホームでも役割をもって、共感共生に基づき、生活をして頂いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に、日常の細かいところも密に現状報告、共有し、本人の支援にあたっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の要望があれば、いつでも対応できる体制ができています。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	観察を行ない、利用者同士の関係を大切にしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去となられた方や、他施設に移られた方など、落ち着いた頃に電話にて、その後の状況等をお聞きし、きずいたことなどを、お話ししている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの利用者に合わせて介護に取り組んでいる。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供を頂き、連携を行なっている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれ、その方にあった生活が送れるように、見守りや介護に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の居心地の良い環境をめざし、カンファレンスを重ね、介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアの記録は、行なえている。きずきがあれば、連絡ノートやカンファレンス等で、情報の共有と介護計画の見直しを、行なっている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば、柔軟に対応できる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、婦人会、消防、ボランティアと、連携できている。横手公民館活動の中で、小学生の皆様との交流を図り、支援を心がけている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの病院を希望される方は、そのまま継続されている。家族が同行できない場合は、しょくいんが受診の支援を行ない、報告している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の訪問診療や、何かあった時等、すぐに連絡がとれるよう、体制ができている。 月2回の心療内科の往診を、頂いている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	お互いに介護引き継ぎ書や、医療提供書などの交換を行なっている。入退院時は、職員が病院に同行している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の承諾書とは別に、重度化や終末期のあり方についての事業所の対応方針を明文化して、利用者や家族へ説明し、方針を共有して頂いている。また、その様な状況になりそうな場合は、早めに連絡し今後のことなどの相談を、行なっている。施設、入院等の連携を図っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルをつくり、全職員が共有している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署からの防災訓練を、年1回行なっている。年間の防災訓練計画をたて、実践している。緊急連絡網に、地域の方の掲載の了解を得ている。災害時に備えて、食料や飲料水の確保をしている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の日常会話での言葉使いは、管理者より常に指導を受けているが、職員間でも注意し合っている。自主勉強会にて、接遇研修等行なっている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様に決定して頂けるような、言葉かけを多くしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様全員で協力して頂く事と、個人で楽しんで頂く事など、一日のスケジュールにメリハリをつけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一度、理美容の方に来て頂き、ヘアカットや、顔そりをして頂いている。また、お正月や忘年会など、お化粧品やマニキュアなどして、おしゃれを楽しんで頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、食事の準備、かたづけ、食器拭きなどを、職員と一緒にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期の血液検査結果などを参考に、食事量や水分量を考えて、実施している。また、入居前から朝食時間が遅かった方は、そのまま継続し、少し遅めの朝食を摂られている。いつでも利用者さまが飲食できるように、準備している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアができない方には、声掛け介助している。また、出来る方も、声掛け見守りを行っている。年2回歯科検診のため歯科医院にお連れしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表により、個人の排泄状況を把握し、対応している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食生活を送って頂き、午前、午後に軽い運動をして頂いている。また、排泄管理表により、排便の確認を行なっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴剤を使ったり、季節の行事に添った入浴により、気分を変えて楽しんで頂いている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない様に注意しながら、その方のペースに合わせ、臥床時間を考慮しながら、夜間の良眠に繋げている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れが無いように、職員が服薬管理を行ない、症状に変化があれば医師に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の手伝い、皮むきや根とり、食器拭き、洗濯物たのみ等のお手伝いが、張り合いになっておられる利用者様もおられる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添う事は、難しいが、前もって計画をたて、家族に協力を得て外出することが出来る。近くの散歩程度であれば、本人の体調と天気を見ながら、実施できている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族の希望に応じて、トラブルが起きないように、支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などは、希望されれば直ぐに対応している。また、お正月やお盆などは、ご本人様よりご家族に、電話でお話し頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が季節の草花を庭にて摘まれ、玄関やトイレ、居室に飾られている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話が出来る様に、気が合う人と近くにいることが出来るようにしている。また、行き違いや勘違いがある時も、理解者が近くにいる様にしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、馴染みの物を持ち込んで頂ける様に、家族と相談している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりに心がけ、一人ひとりの行動や言動に見守りと注意を払っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない